（４）工事における社会的コストの低減
Ⅳ①工事におけるリサイクルの推進

駅の旅客上家の天井材及び壁材に間伐材を利用

日本鉄道建設公団　大阪支社　阿佐線 旅客上家工事

【施策の概要】

阿佐線は、高知県に位置する全線 43Km 余の地方鉄道線で、線内に 19 駅がある。高知県は、県土の８４％が森林で覆われており、全国一の森林面積を有する屈指の林業県である。このうち、18 駅の旅客上屋に間伐材を使用して、資源の有効利用を図った。

【施策のポイント】

駅上家の木造化について関係市町村他、土佐くろしお鉄道および県との協議検討の結果、県交通政策課を介し県森林政策課「木の文化県推進班」の全面的な協力を得ることができた。

また、約 35Km が土佐湾の海岸近くを通過するため海風による塩害対策、更には 16 駅が無人駅であり、この構造形式がメンテナンスフリーにも寄与している。

また、図-1 は県森林政策課による旅客上家の提案パースです。

旅客上家への間伐材利用実現のため検討した技術的課題を以下に記します。

①ACQ 防腐処理　人体への影響や環境負荷の観点から、ACQ（銅、ｱﾙｷﾙｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物）の低毒性が主な選定理由です。

②木材の性質を活かした曲線屋根の旅客上家　構造フレームには鉄骨を用い、壁面部の木材はＨ形鋼のフランジの間に木材を挟み込みます。上家メンテナンス作業の利便性を考え、ホーム上からの木材の脱着ができるようにしました(図-2)。

【施策の実施状況・イメージ図】

なお平成 13 年度、ここで紹介した間伐材を利用した人と自然に優しい旅客上家は、平成１４年度の開業に向け施工されています。

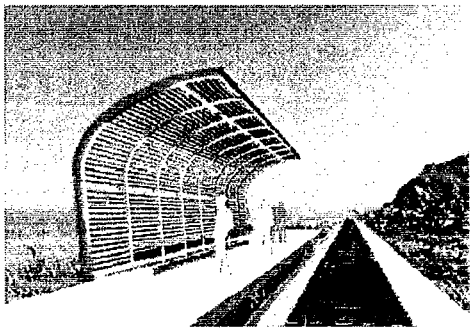

図-1　イメージ図

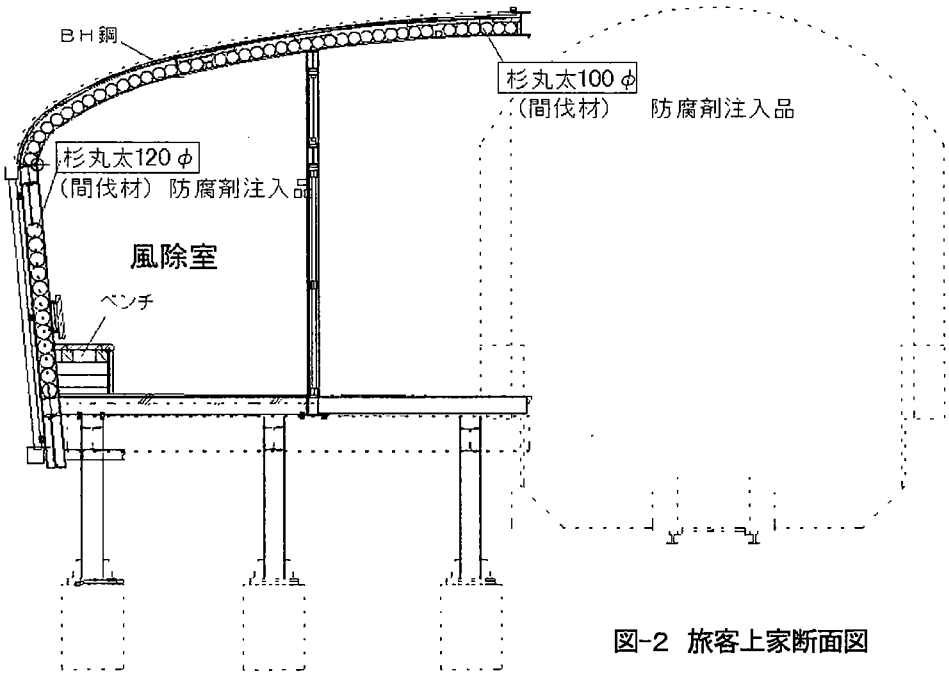

図-2　旅客上家断面図